

# 鹿児島県における 新型コロナウイルス感染症拡大が子育て及び子どもの生活に与える影響に関する 調査報告書（第2期：2021年8月）

## はじめに

新型コロナウイルス (COVID-19) の感染が世界的に拡大する中で、感染症対策下での生活が長期化することになった。本調査は、感染症対策下での生活により子どもたちにどのような影響が出ているのか、保護者がどのような負担を抱えているのかということ把握するために行っているものである。感染症対策下での生活が長期化する中で、負担の増減を把握するために1年ごとの調査を行っている。2020年8月の第1回調査に引き続き、2021年8月に第2回調査を行った。本報告書は第2回調査をまとめたものである。調査時期はデルタ株を中心としたいわゆる第5波が到来し、全国的に新規感染者数が増加したころであった。調査対象地域は、離島を含む鹿児島県全域とし、Webによる調査方法を採用した。

調査結果は [A. 調査対象者の概要] [B. 子どもの心身の変化] [C. 保護者の心身の変化] [D. 新しい生活様式の中で] [D. 特別支援教育を受けている子どもたち・保護者について] に分けて報告する。それぞれの章のまとめを各章冒頭に示し、最後に総合的なまとめと今後に向けての展望を記載した。第1期調査時（2020年）との比較は各章および総合まとめ部分でも簡単に触れるが、昨年度結果の詳細はホームページに公開している第1期報告書（2020年8月版）を合わせてご参照いただきたい。調査結果が子どもや子育てへの支援の検討に貢献することを願っている。

## 1. 調査目的

新型コロナウイルス感染症の拡大とそれに伴う生活の変化が、幼児・小学生の保護者と子に与えた影響を明らかにすること。

## 2. 調査の方法

### 1) 調査期間、調査対象、回収数

**調査期間**：2021（令和3年）8月10日～9月11日。

**調査対象**：鹿児島県に居住し4歳から12歳（小6まで）<sup>\*1</sup>を育てる保護者。

\*1本調査では休校や行事中止等の影響を受けやすい年齢幅を想定し、幼児と学齢児を育てる保護者を対象とした。

**調査方法**：Google form を利用した Web 調査。チラシ等により調査の協力と依頼を行った。

回答にかかる時間は10～15分であった。

**回収数**：84

### 2) 調査項目

調査票は、A. 基本項目、B. 子どもの心身の変化、C. 保護者の心身の変化、D. 新しい生活様式に向けて、に分けて質問項目を設定した。

### 3) 倫理的配慮

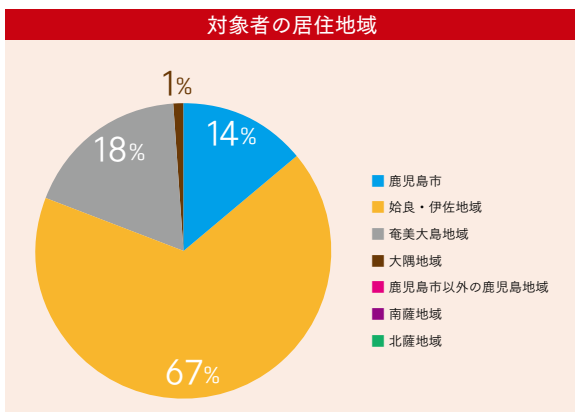
フォーム冒頭で調査目的と個人情報の取り扱いを説明し、同意が得られた方だけを対象に調査を行った。調査は無記名で個人を特定できる情報は収集せず、回答は統計的に処理を行った。

### 3. 調査結果

#### A. 調査対象者について

##### A-1. 対象者居住地域

調査対象者の居住地域は、始良・伊佐地域が67%と最も多く協力いただき、次いで奄美大島地域18%、鹿児島市14%であった。今回の調査では、その他の地域からの協力は少数であった。



※各地域詳細

始良・伊佐地域：霧島市、伊佐市、始良市、湧水町

奄美大島地域：奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町、喜界町、徳之島町、天城町、伊仙町、和泊町、知名町、与論町

大隅地域：鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町

鹿児島市以外の

鹿児島地域：日置市・いちき串木野市・三島村・十島村

南薩地域：枕崎市、指宿市、南さつま市、南九州市

北薩地域：阿久根市、出水市、薩摩川内市、さつま町、長島町

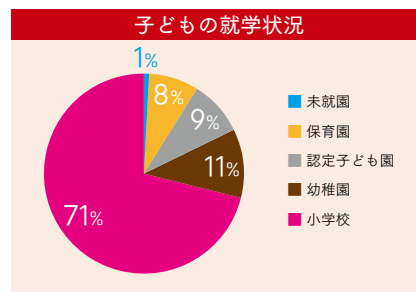
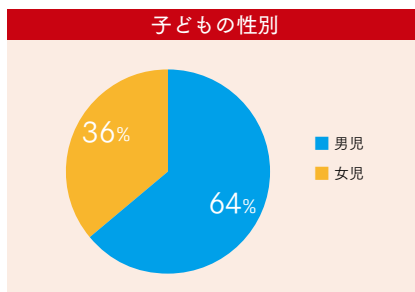
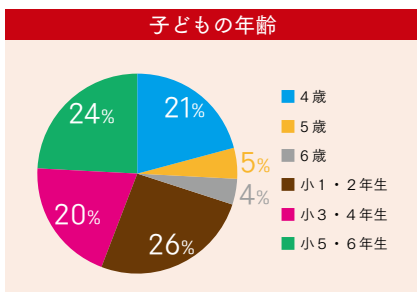
熊毛地域：西之表市、中種子町、南種子町、屋久島町

##### A-2. 回答者

回答者は88%が母親で12%が父親であった。母親からの回答が多いことが示されている。

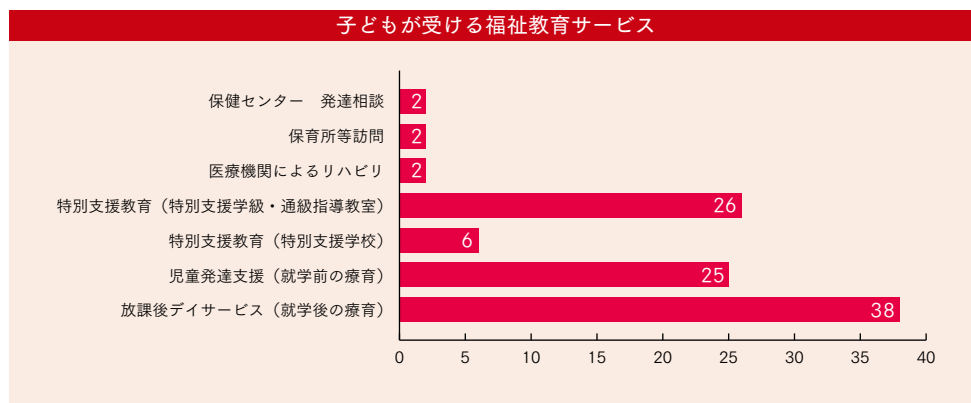
##### A-3. 子どもの年齢・学年／就学状況／性別

対象となる子どもの年齢は未就学が30%(24名)、小学生が70%(60名)であった。それぞれの年齢や性別は以下に示す。



##### A-4. 子どもが受ける特別支援教育、福祉教育サービス（複数回答可）

特別支援教育や福祉教育サービスを受けている子どもは回答者全体の63.1%であった。教育や福祉教育サービスの内訳では放課後デイサービス、特別支援教育（特別支援学級・通級指導教室）、児童発達支援の順で利用している子どもが多かった。



## B. 子どもの心身の変化

※下記の結果文章では「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせて「そう思う」という回答として整理し記述した。

**感染症対策下での子どもの生活について**、子どもは感染症対策下の生活に「慣れたか」「疲れているか」「我慢をしているか」「イライラしているか」「良いところがあると思っているか」「楽しんでいるか」について尋ねた。その結果、保護者の58%は感染症対策下での生活に子どもは慣れていると捉えているものの、73%が感染症対策下での生活に我慢を強いられており、48%が感染症対策下での生活に疲れていると捉えていることが示された。さらに、全年齢では保護者の39%が子どもは感染症対策下での生活にイライラしていると回答しているが、この傾向には年齢群により差があり、未就学児の29%に比べ、小学生は42%と、小学生の方がより多い割合でイライラしていると捉えていることが示された。

他方、3割程度の保護者は子どもは「感染症対策下での生活にも良いところがあると思っている」「感染症対策下での生活を楽しんでいる」と捉えていることも示された。

**感染症対策下での生活における子どもの心身の変化として**、体調不良の訴え、睡眠、食欲、通学、怒り、甘え、疲労、勉強、家族トラブル、友人トラブル等について尋ねた。その結果、変化が多い順では、「甘えることが増えた(40%)」「怒りっぽくなった(36%)」「疲れやすくなった(28%)」と心理面の変化が顕著に挙げられた。さらに、「通学上の問題が生じた(23%)」「睡眠の問題が増えた(22%)」「食欲の変化があった(20%)」と行動上・身体的な変化が挙げられた。加えて、23%が家族トラブルの増加、13%が友人とのトラブルの増加を示しており、感染症対策下での生活において子どもの情緒および行動、身体全般的に変化が生じていることが示されている。

子どもの変化に関する自由記述からは、感染症対策が習慣化されたことに加え、コロナ関連のニュースや風邪症状への不安の増加ややりたいことを「コロナだから無理」と自分で諦める様子などが多く記述された。子どもたちが感染症対策を身につけてきていること、自ら様々な欲求を自粛している様子が窺われる。

**2020年の第1期調査との比較においては**、2020年度の同項目の全年齢およびそれぞれの年齢群の回答割合を下記に示すが、多くの項目で変化がなく、心身の負担は軽減していないことが示されている。昨年からの変化としては下記2点が挙げられる。1点目は「家族トラブルの増加」である。2020年には家族トラブルは全年齢で12%、未就学児で5%、小学生16%に増加が認知されていた。今回の調査では、全年齢では23%、未就学児で21%、小学生24%と昨年に比べ割合が増している。特に、未就学児において割合が増加している。これらは、いわゆる巣ごもり生活の長期化の影響と考えられる。2点目としては、「年齢群による差異がなくなったこと」である。2020年調査においては、身体的不調、睡眠問題の増加、食欲の変化等多くの項目で未就学児より小学生の困難の方が高く認知されていた。しかしながら今回の調査においては、ほとんどの項目で未就学児と小学生の間に困難がある割合において統計的にはっきりとした差異がなかった。2020年は感染拡大による休校等の影響により小学生により困難が強く生じていたことに対し、2021年は長期的な感染対策下での生活により、年齢によらず、多くの子どもに困難が生じていると捉えられるだろう。以下にそれぞれの項目について全年齢のデータと未就学児、小学生を分けたデータをそれぞれ整理する。

参考) 第1期・第2期において各項目に当てはまる(とてもそう思う・少しそう思う)と回答した割合

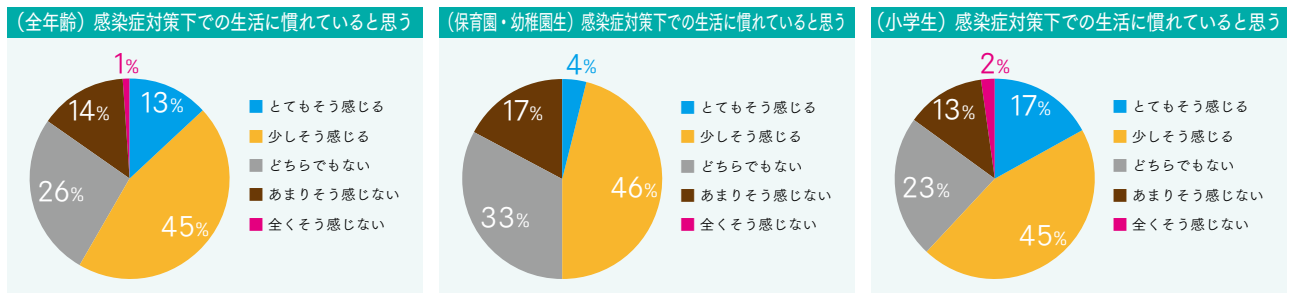
	第1期：2020年8月 全年齢		第2期：2021年8月 全年齢	
	未就学児	小学生	未就学児	小学生
身体不調の訴えの増加	11	14	17	20
睡眠の問題の増加	24	30	30	20
食欲の変化	4	14	17	22
通学の問題の増加	8	12	21	25
怒りっぽくなった	25	29	30	38
甘えの増加	38	41	42	38
疲れやすくなった	22	30	25	30
学習上の問題の増加	2	35	17	19
家族トラブルの増加	12	16	21	24
友達トラブルの増加	5	10	8	15

※表中の数値はそれぞれの調査時期の回答者における割合(%)を示す。

## B-1. 感染症対策下での子どもの生活感覚

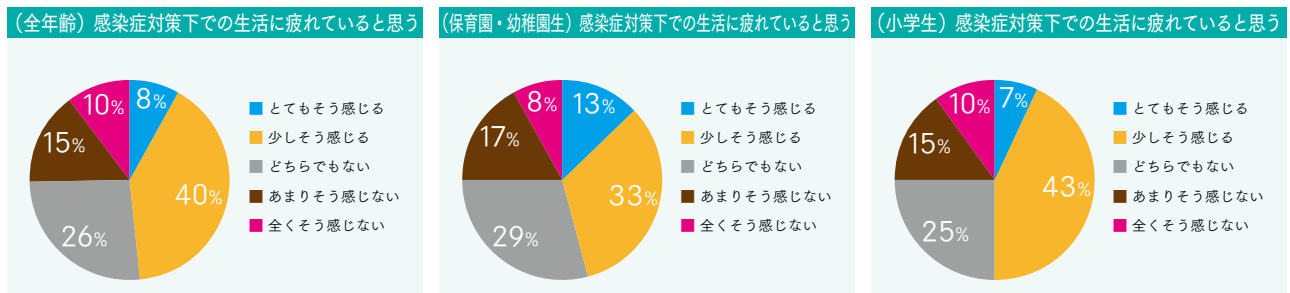
(感染症対策下の生活に慣れていると思うか?)

全年齢では58%、未就学児50%、小学生では62%と、半数から6割弱の子どもが感染症対策下での生活に慣れていると捉えられている。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。



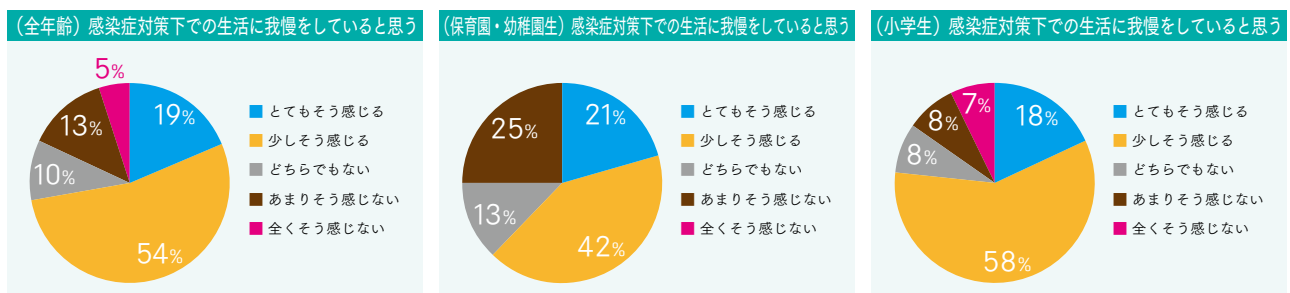
(感染症対策下の生活に疲れていると思うか?)

全年齢では48%、未就学児46%、小学生では50%と年齢群によらず約半数の子どもが感染症対策下での生活に疲れていると捉えられている。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。



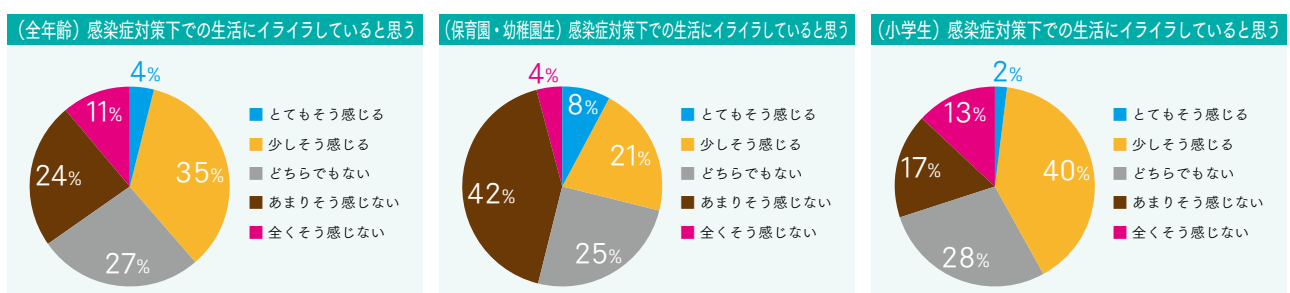
(感染症対策下の生活に我慢をしていると思うか?)

全年齢では73%、未就学児63%、小学生では76%と、6割~7割の子どもが感染症対策下の生活に我慢をしていると捉えられている。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。



(感染症対策下の生活にイライラしていると思うか?)

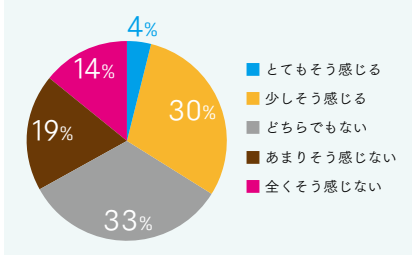
全年齢では39%、未就学児29%に比べ、小学生では42%と多くの子どもが感染症対策下での生活にイライラしていると捉えられている。未就学児と小学生の間に統計的な差があり、小学生の方がより高い割合で感染症対策下の生活にイライラしていると捉えられている。



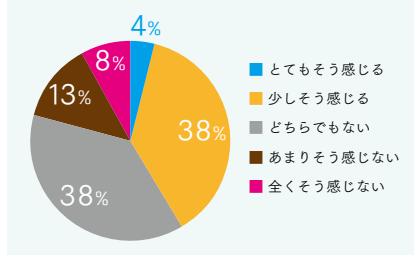
(感染症対策下の生活にも良いところがあると思うか?)

全年齢では34%、未就学児42%、小学生では30%と、3割程度の子どもが感染症対策下の生活にも良いところがあると感じていると捉えられている。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。

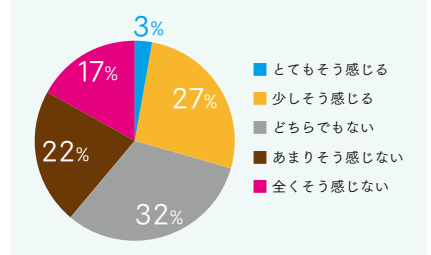
(全年齢) 感染症対策下での生活にも良いところがあると思う



(保育園・幼稚園生) 感染症対策下での生活にも良いところがあると思う



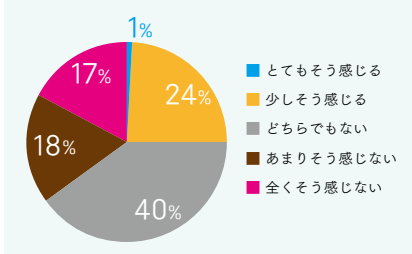
(小学生) 感染症対策下での生活にも良いところがあると思う



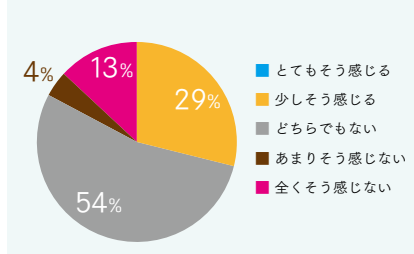
(感染症対策下の生活を楽しんでいると思うか?)

全年齢では25%、未就学児29%、小学生では24%と、3割弱の子どもが感染症対策下の生活を楽しんでいると捉えられている。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。

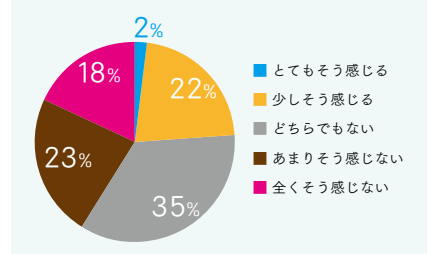
(全年齢) 感染症対策下の生活を楽しんでいると思う



(保育園・幼稚園生) 感染症対策下の生活を楽しんでいると思う



(小学生) 感染症対策下の生活を楽しんでいると思う

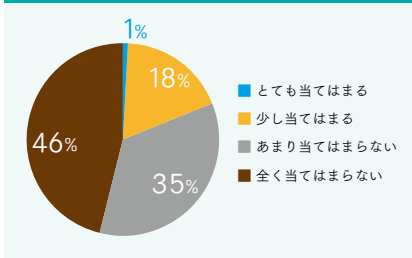


B-2. 子どもの心身の変化

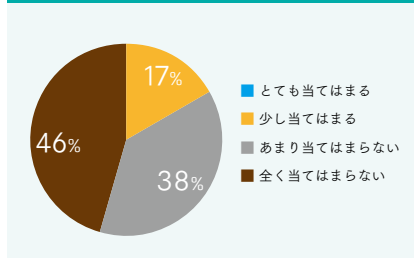
(身体不調の訴えが増えたか)

全年齢では19%、未就学児17%、小学生では20%が身体不調の訴えが増えたと回答。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。

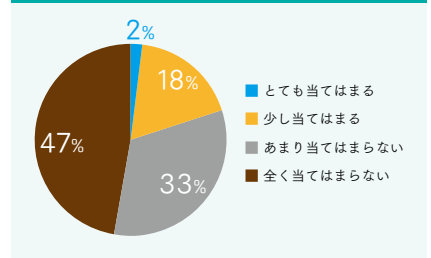
(全年齢) 身体の不調の訴えが増えた



(保育園・幼稚園生) 身体の不調の訴えが増えた



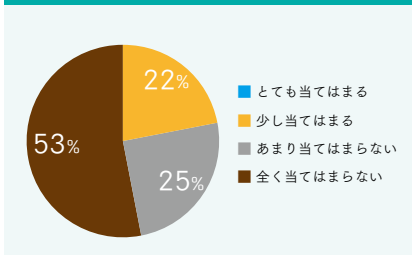
(小学生) 身体の不調の訴えが増えた



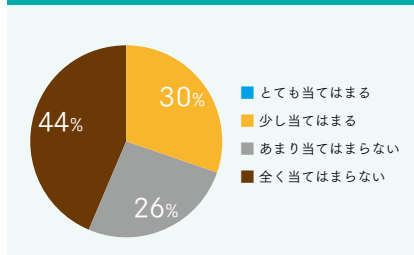
(睡眠の問題が増えたか)

全年齢では22%、未就学児30%、小学生では18%が睡眠の問題が増えたと回答。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。

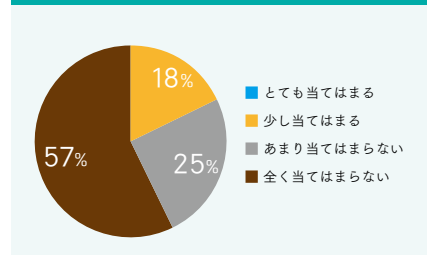
(全年齢) 睡眠の問題が増えた



(保育園・幼稚園生) 睡眠の問題が増えた

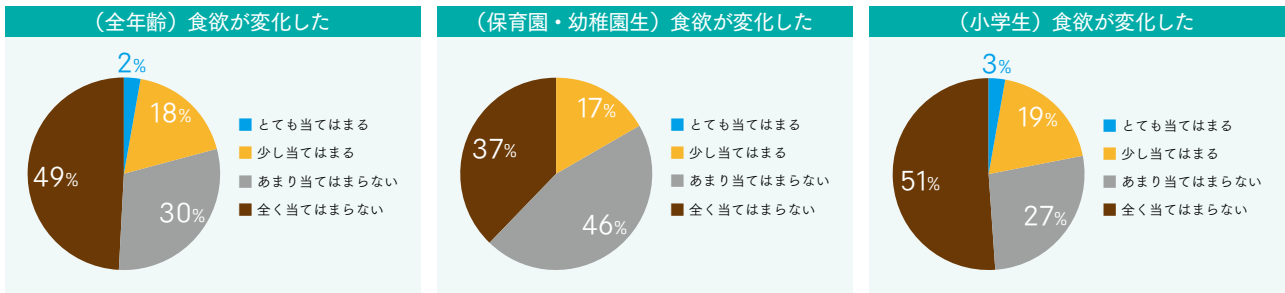


(小学生) 睡眠の問題が増えた



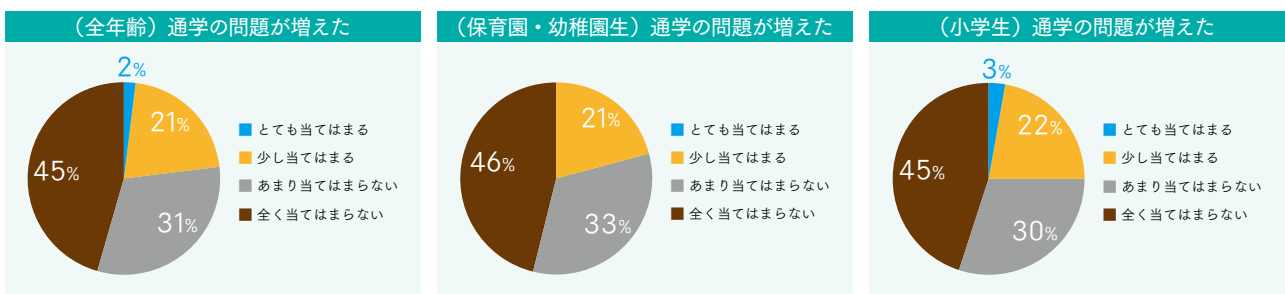
### (食欲が変化したか)

全年齢では20%、未就学児17%、小学生22%が食欲の変化があったと回答。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。



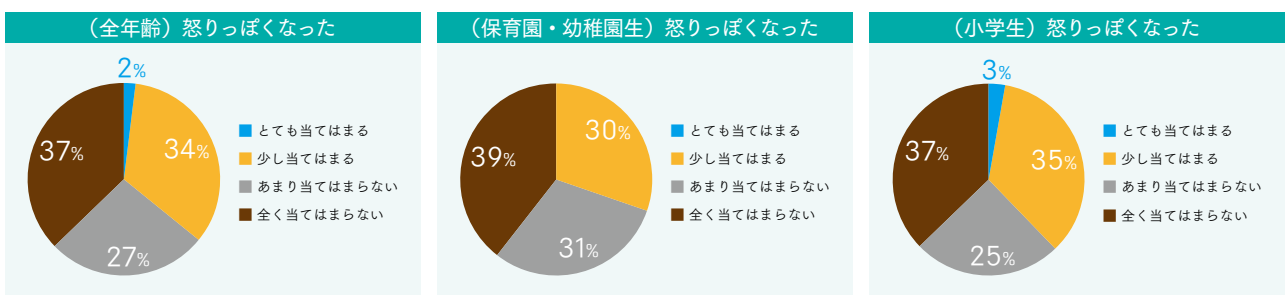
### (通学の問題が増えたか)

全年齢では23%、未就学児21%、小学生では25%が通学の問題が増えたと回答。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。



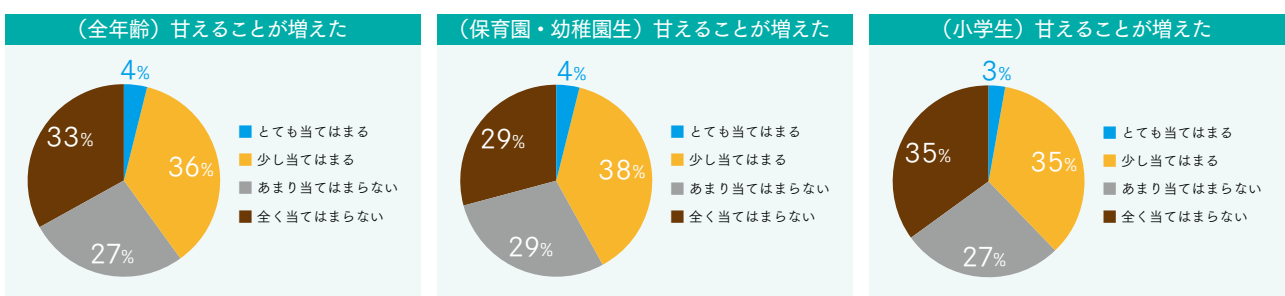
### (怒りっぽくなったか)

全年齢では36%、未就学児30%、小学生38%が怒りっぽくなったと回答。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。



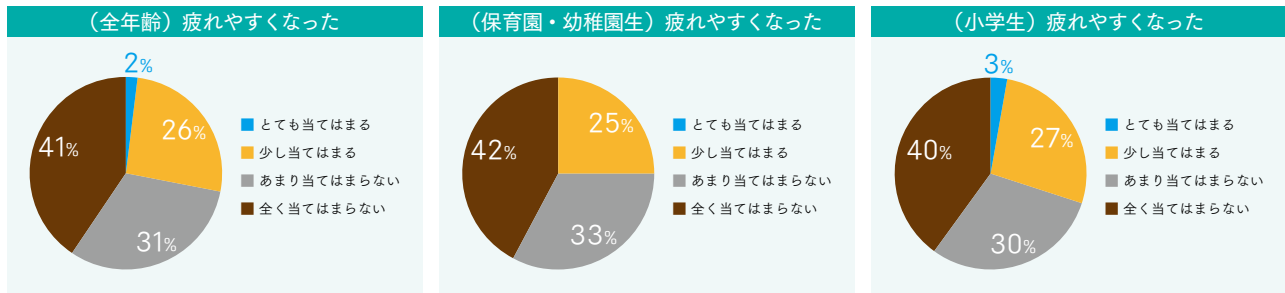
### (甘えることが増えたか)

全年齢では40%、未就学児42%、小学生38%が甘えることが増えたと回答。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。



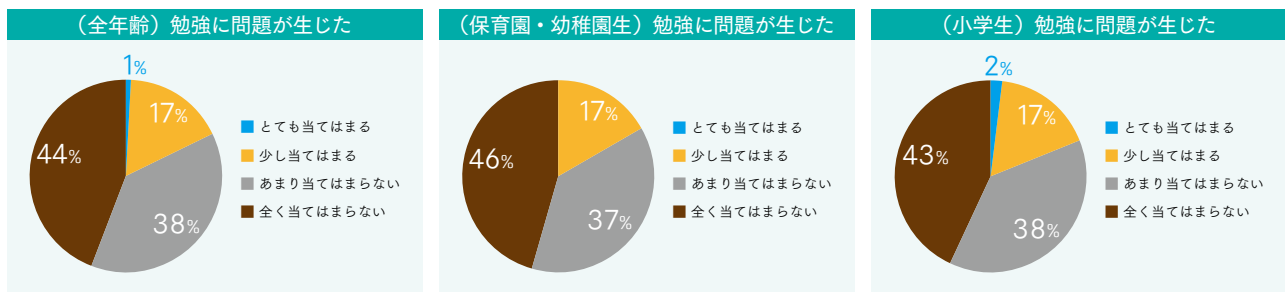
## (疲れやすくなったか)

全年齢では28%、未就学児25%、小学生30%が疲れやすくなったと回答。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。



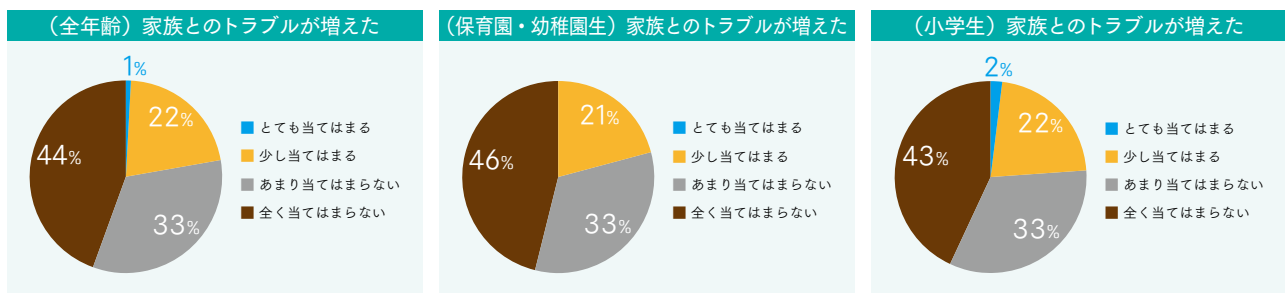
## (勉強に問題が生じた)

全年齢では18%、未就学児17%、小学生19%が学習上の問題が増えたと回答。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。



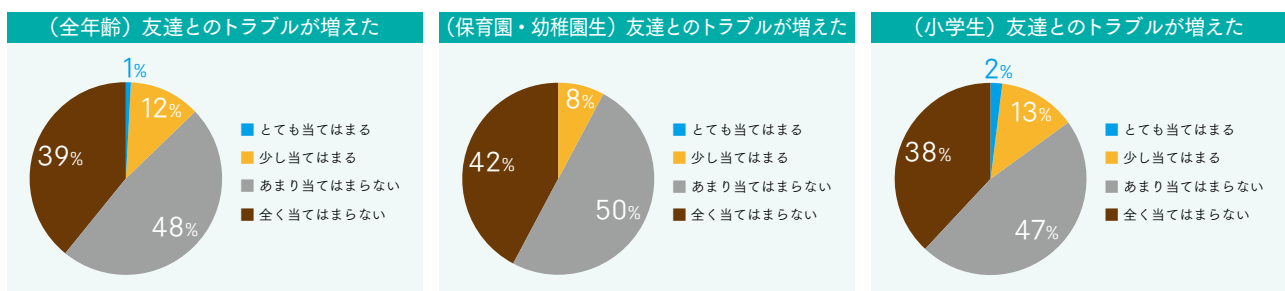
## (家族とのトラブルが増えたか)

全年齢では23%、未就学児21%、小学生24%が家族のトラブルが増えたと回答。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。



## (友達とのトラブルが増えたか)

全年齢では13%が友達とのトラブルが増えたと回答。未就学児8% 比べ、小学生では「とても当てはまる」「少しあてはまる」が15%と、より多くが問題が増えたと回答している。



### B-3. 子どもの変化として気づくこと（自由記述）※（ ）内の数字は同様の意見を書いた方の人数を示す

#### （感染症対策の習慣化）

- マスクすることに慣れてきた（7）
- 手洗いうがいマスクが習慣化した（4）
- 苦手なマスクをしてくれるようになった（2）
- マスクをつけることが難しい子は、慣れるのに時間がかかる
- 家の中でもマスクをつける事がある

#### （感染症への不安、活動の諦め）

- ニュースを見るなど意識するようになった
- コロナを怖がり少し体調が悪くなれば怖がるようになった
- 少しでも風邪症状があると不安になる
- 学校の先生やお友達、知人以外の全ての人にはコロナだと不安感が強くなっている
- コロナのニュースを見ると「もしコロナになったら、入院しないといけないの？」と不安そう
- 人が多い場所を嫌がるようになった
- 「コロナだからどこにも行けないね」と諦めるような発言が聞かれるようになった
- 「どうせ」という言葉をよく使うようになった
- どこかに出かけたいと言わなくなった
- 何かあればコロナがあるからできないねって言うようになった
- 行きたいところがあるけどダメだよ、と割り切る場面が増えた
- コロナがおさまったら行こうね、と自分から言うようになった
- いくらコロナの事を話してもまだ新一年生なので理解に関してはまだ難しい

#### （行動制限への不満・自粛生活の影響）

- 思う時、思う場所に出かけられないことや、学校行事の中止などへの不満はある様子
- イベントが出来なくてお友達と仲が深められない
- 自由に遊べない事に、怒ってる
- 友達に、会えないことでイライラ
- 自由に遊べないことに不満を持っている
- いろんな所に行きたがるようになった。特に帰省できないので、祖父母の様子を気にしているのか行きたいと言うようになった
- コロナが収まったら、〇〇に行きたい！など日常の会話で話すようになった
- 友達の所に遊びに行きたいと言うようになった
- 友だちと放課後遊べない日が続いていることでのストレス
- いつ友達と自由に遊べるの？と言ってきました
- 園や季節のイベントが中止となり、大変残念な様子である
- 思うように遊べないので、不満を持っている感じがする
- 行きたいところになかなか行けずにイライラしている
- 慣れない場所、経験、人等苦手だったのか、かなり克服されつつあったのですが、コロナ禍で学校でも家庭でも様々な経験が減り、ふりだしに戻ってきている感じ



## (在宅時間の長期化による影響)

- 動画、ゲーム時間が長い (2)
- 一日中、家から出ずゲームや YouTube をする時間が増えた
- 外で遊ぶことへの興味が広がらないので、以前にも増して、ゲームなどの時間が長くなっている
- 外に出なくなった
- 運動する機会が減り、また家にいる時間が多くなったことで食欲が増し、少し体がぽっちゃりしてきた
- 在宅で過ごすことが多く、食事の量が増え、運動が減った。タブレットの使用が増え動画視聴や TV 視聴も増えた
- スマホを見る時間が増え、落ち着きがなくなった様な気がします
- 体力が落ちた
- 寝る時間が遅くなりました

## (変化を感じない)

- 大きな変化は感じていません (3)

## C. 保護者の心身の変化

※下記の結果文章では「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせて「そう思う」という回答として整理し記述した。

**感染症対策下での保護者の生活感覚について**、保護者は感染症対策下の生活に「慣れたか」「疲れているか」「我慢をしているか」「イライラしているか」「良いところがあると思っているか」「楽しんでいると思うか」について尋ねた。その結果、感染症対策下での生活に64%（とてもそう思う／少しそう思うと回答、以下同様）の保護者は慣れていると感じるものの、79%が感染症対策下での生活に我慢をしていると感じ、78%が感染症対策下での生活に疲れていると感じていることが示された。慣れては来ているものの、我慢を強いられる生活に疲労が蓄積している様子が感じられる。さらに、そのような生活に47%の保護者がイライラしていると回答している。

他方、51%の保護者が「感染症対策下での生活にも良いところがある」と感じていることが示された。また、全年齢の保護者の18%、小学生の保護者の15%が「感染症対策下での生活を楽しんでいる」と感じていた。この項目は、小学生の保護者と未就学児の保護者の間の回答に統計的な差があり、未就学児の保護者は26%とより高い割合で「感染症対策下での生活を楽しんでいる」と回答した。

自由記述からは、外出や会食などストレス解消に繋がる活動ができずに負担であるという回答とともに、人間関係の整理ができ行事が減って楽になったとの回答も見られており、感染症対策ということで、対人面や社会的煩わしさが一部軽減されたことが「感染症対策下での生活にも良いところがある」「感染症対策下での生活を楽しんでいる」という回答に繋がったものと推測される。

**感染症対策下での生活における保護者の心身の変化として**、体調不良の訴え、睡眠、食欲、通学、怒り、甘え、疲労、勉強、家族トラブル、友人トラブル等について尋ねた。その結果、変化が多い順では、「疲れやすくなった(53%)」「怒りっぽくなった(39%)」と心理面の変化が顕著に挙げられた。さらに、「体調不良が増えた(28%)」「食欲の変化があった(27%)」「業務や家事の遂行上の問題が増えた(27%)」「睡眠の問題が増えた(23%)」と行動上・身体的な変化が挙げられた。

また、家族トラブルの増加については、小学生の保護者の20%が増加したと回答していることに比べ、未就学児の保護者はより多い42%が家族トラブルの増加を感じていることが示された。同様に、同僚や友人とのトラブルの増加についても、小学生の保護者2%に比べ、未就学児の保護者は21%が同僚や友人とのトラブルの増加を感じていた。感染症対策下での生活において保護者の心身の疲労の

蓄積が身体面、行動面全般に及んでおり、それが身近な人とのトラブルの増加につながっていることが推察される。この傾向は未就学児の保護者により顕著である可能性がある。

2020年の第1期調査との比較においては、2020年度の同項目の全年齢およびそれぞれの年齢群の回答割合を下記に示す。多くの項目で変化がなく、心身の負担は軽減していないことが示されている。昨年からの変化としては下記2点が挙げられる。1点目は「家族トラブルの増加」である。2020年には家族トラブルは全年齢の保護者で15%、未就学児の保護者で14%、小学生の保護者で16%が増加を認知していた。今回の調査では、全年齢では27%、未就学児で42%、小学生20%と昨年に比べ割合が大きく増している。特に、未就学児において割合が増加している。これらは、家族時間が増えたことが長期化したことによる影響と考えられるが、注意が必要な点であろう。2点目としては、「通勤の問題の増加」である。2020年調査においては、全年齢の保護者の5%が通勤の問題の増加を感じていたが、今回の調査では11%と倍増している。感染症が拡大する中で人混みを避ける等の感染対策をしながらの通勤に問題が生じていると考えられる。

以下にそれぞれの項目について全年齢の保護者データと未就学児の保護者、小学生の保護者を分けたデータを報告する。

参考) 第1期・第2期において各項目に当てはまる(とてもそう思う・少しそう思う)と回答した割合

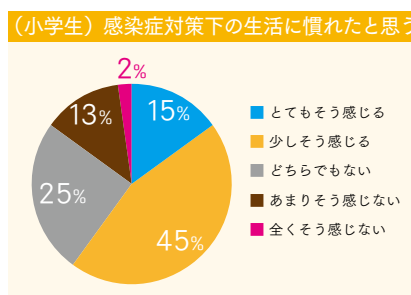
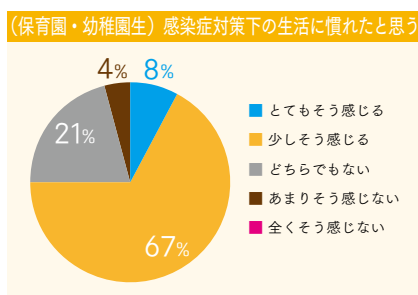
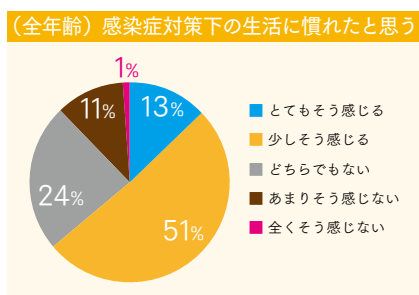
	第1期：2020年8月		第2期：2021年8月	
	全年齢の保護者	未就学児の保護者	全年齢の保護者	小学生の保護者
体調不良の増加	38	37	21	28
睡眠の問題の増加	24	30	21	23
食欲の変化	17	23	25	27
通勤の問題の増加	4	5	12	10
怒りっぽくなった	31	36	42	39
疲れやすくなった	41	48	46	53
業務・家事遂行上の問題の増加	36	33	33	33
家族トラブルの増加	14	15	42	20
友達トラブルの増加	-	-	21	2

※表中の数値はそれぞれの調査時期の回答者における割合(%)を示す。

### C-1. 感染症対策下での保護者の生活感覚

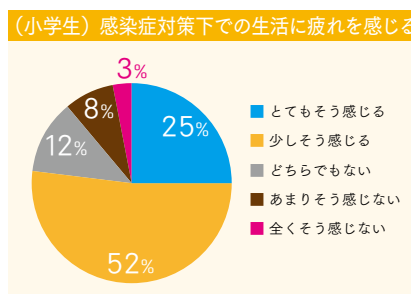
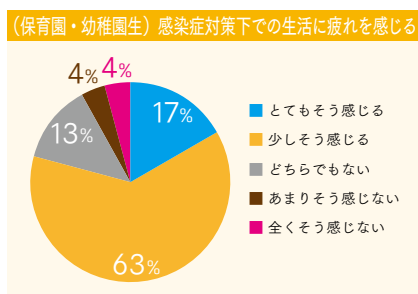
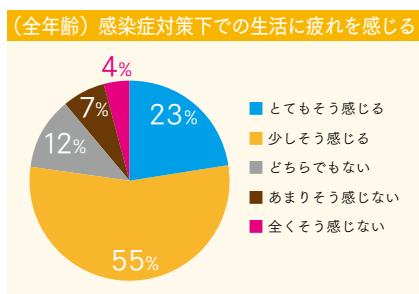
(感染症対策下の生活に慣れていると思うか?)

全年齢の保護者では64%、未就学児の保護者75%、小学生の保護者では60%と、年齢群によらず6割~7割程度の保護者が感染症対策下での生活に慣れていていると感じている。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。



(感染症対策下の生活に疲れていると思うか?)

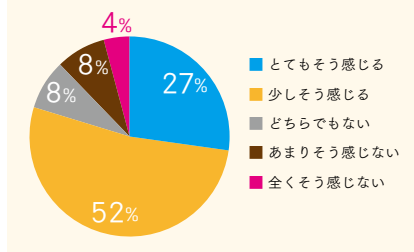
全年齢の保護者では78%、未就学児の保護者80%、小学生の保護者では77%と年齢群によらず約8割の保護者が感染症対策下での生活に疲れていると感じている。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。



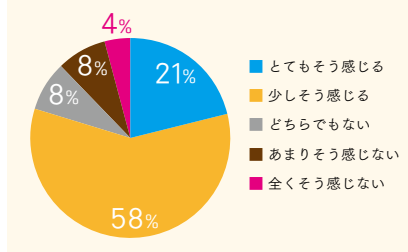
### （感染症対策下の生活に我慢をしていると思うか？）

全年齢の保護者では79%、未就学児の保護者79%、小学生の保護者では80%と、年齢群によらず8割程度の保護者が感染症対策下での生活に我慢をしていると感じている。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。

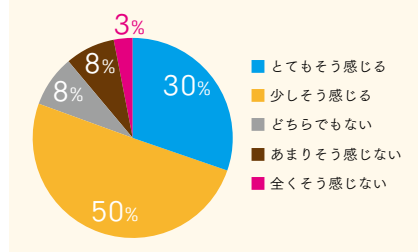
（全年齢）感染症対策下での生活に我慢をしている



（保育園・幼稚園生）感染症対策下での生活に我慢をしている



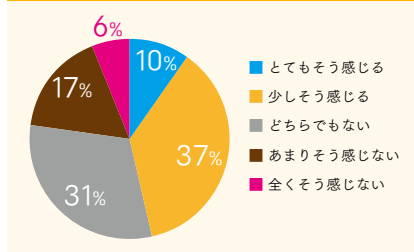
（小学生）感染症対策下での生活に我慢をしている



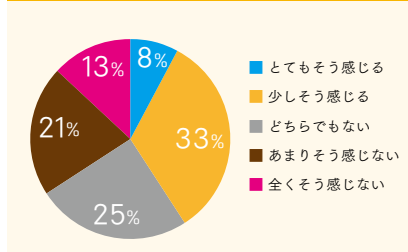
### （感染症対策下の生活にイライラしていると思うか？）

全年齢の保護者では47%、未就学児の保護者41%に比べ、小学生の保護者では48%と、年齢群によらず半数程度の保護者が感染症対策下での生活にイライラしていると感じている。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。

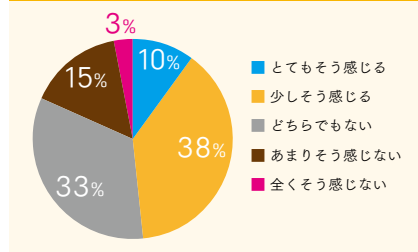
（全年齢）感染症対策下での生活にイライラしている



（保育園・幼稚園生）感染症対策下での生活にイライラしている



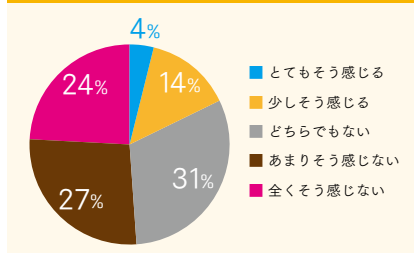
（小学生）感染症対策下での生活にイライラしている



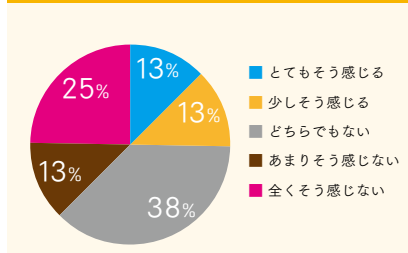
### （感染症対策下の生活を楽しくしているか？）

全年齢の保護者では18%、未就学児の保護者26%、小学生の保護者では15%が感染症対策下の生活を楽しくしていると感じている。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差があり、未就学児の保護者の方がより高い割合で感染症対策下の生活を楽しくしていると感じている。

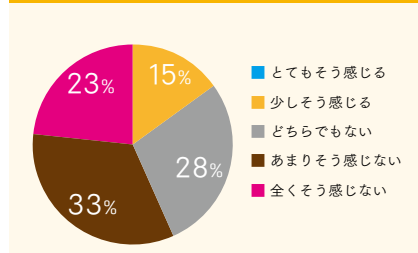
（全年齢）感染症対策下での生活を楽しく感じる



（保育園・幼稚園生）感染症対策下での生活を楽しく感じる

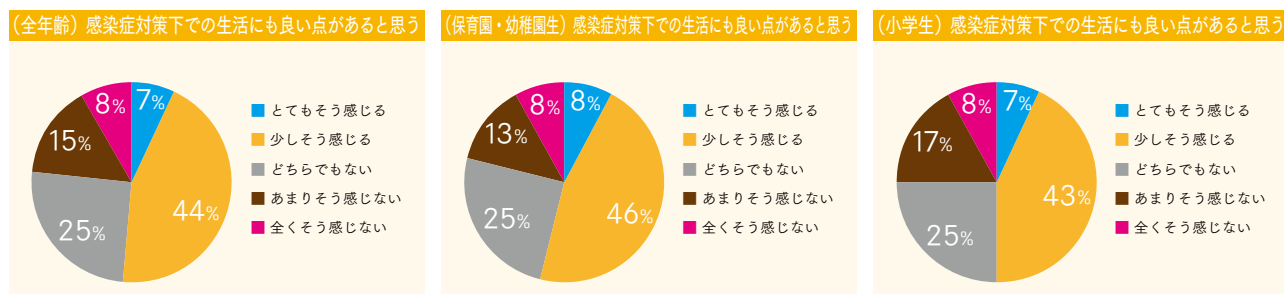


（小学生）感染症対策下での生活を楽しく感じる



(感染症対策下の生活にも良いところがあると思うか?)

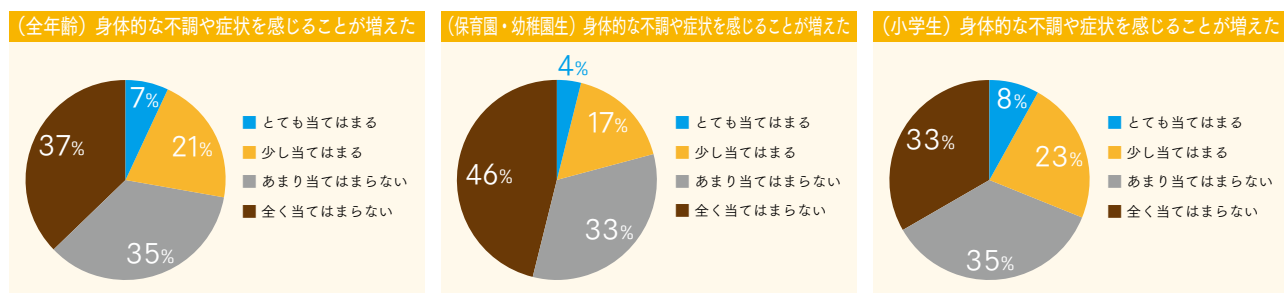
全年齢の保護者では51%、未就学児の保護者54%、小学生の保護者では50%と、年齢群によらず半数程度の保護者が感染症対策下の生活にも良いところがあると感じている。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。



C-2. 保護者の心身の変化

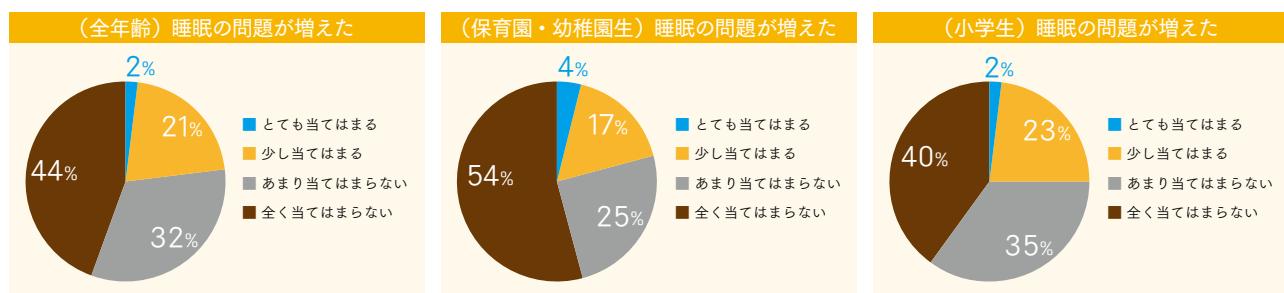
(身体的な不調が増えたか)

全年齢の保護者では28%、未就学児の保護者21%、小学生の保護者では31%が体調不調が増えたと回答。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。



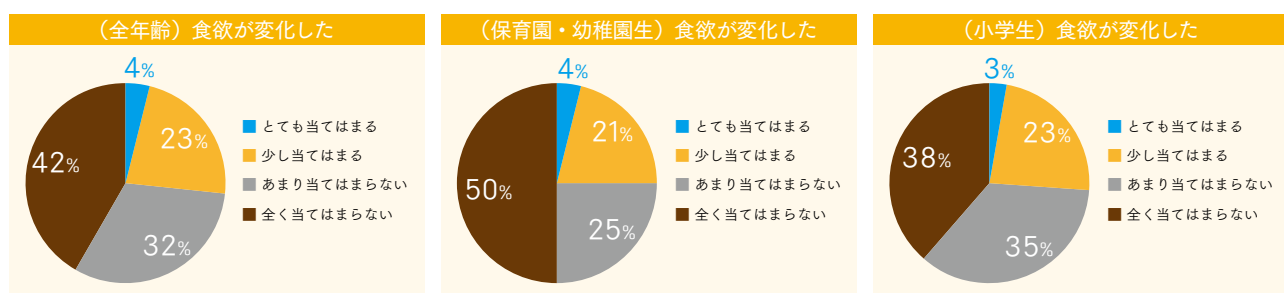
(睡眠の問題が増えたか)

全年齢の保護者では23%、未就学児の保護者21%、小学生の保護者では25%が睡眠の問題が増えたと回答。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。



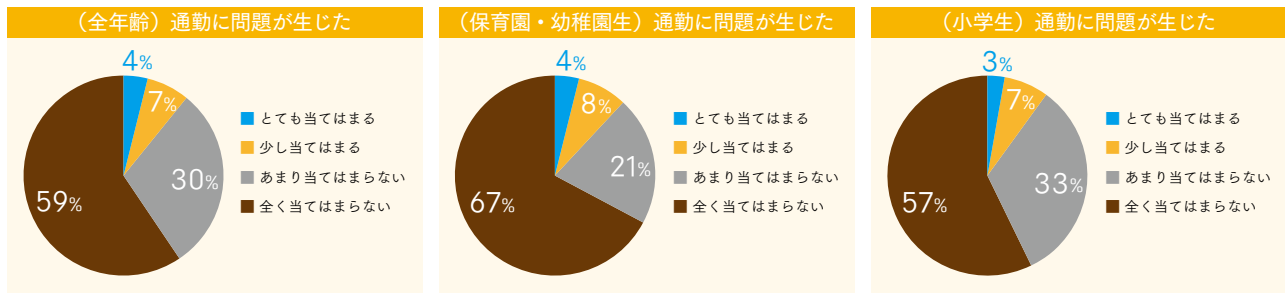
(食欲が変化したか)

全年齢の保護者では27%、未就学児の保護者25%、小学生の保護者26%が食欲の変化があったと回答。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。



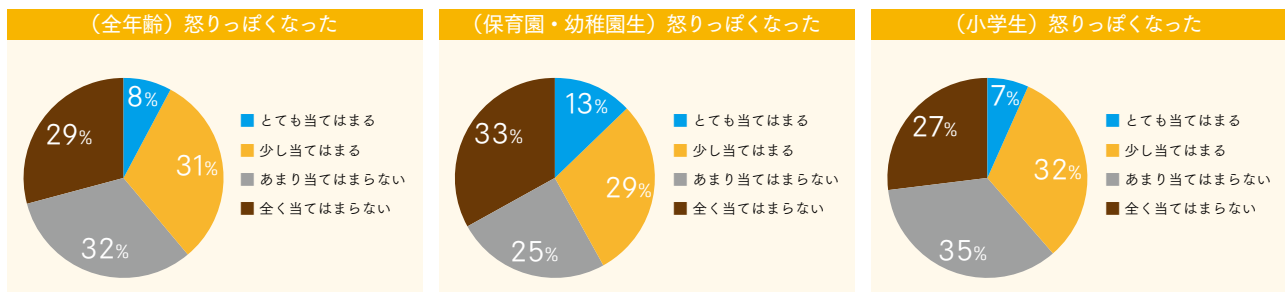
## (通勤の問題が生じたか)

全年齢の保護者では11%、未就学児の保護者12%、小学生の保護者では10%が通勤の問題が増えたと回答。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。



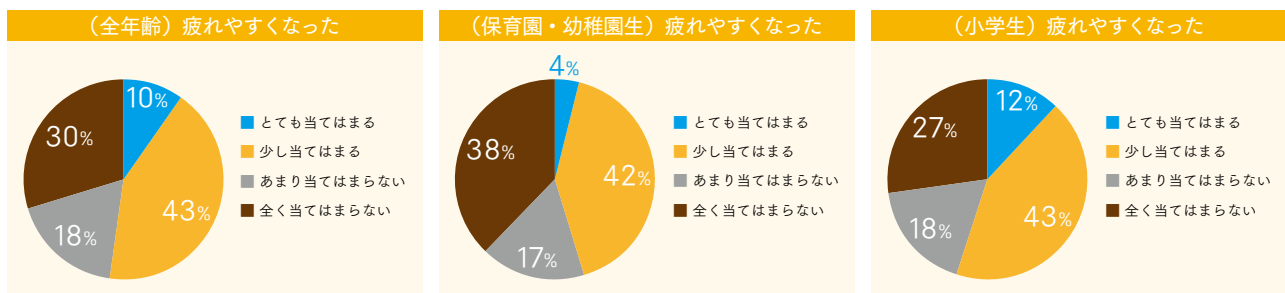
## (怒りっぽくなったか)

全年齢の保護者では39%、未就学児の保護者42%、小学生の保護者39%が怒りっぽくなったと回答。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。



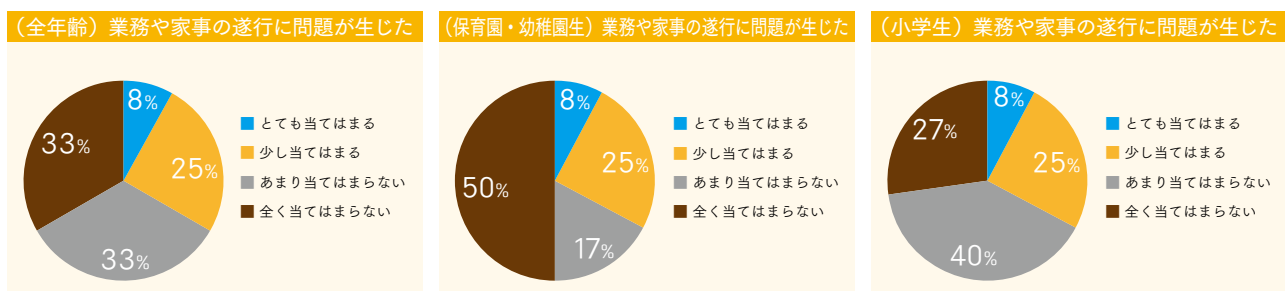
## (疲れやすくなったか)

全年齢の保護者では53%、未就学児の保護者46%、小学生の保護者55%が疲れやすくなったと回答。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。



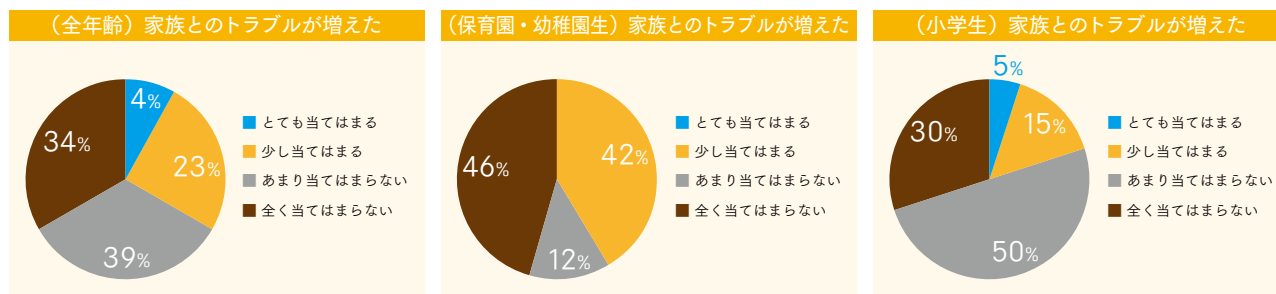
## (業務や家事の遂行に問題が生じたか)

全年齢の保護者では33%、未就学児の保護者33%、小学生の保護者33%が業務や家事を遂行する上での問題が増えたと回答。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差はなかった。



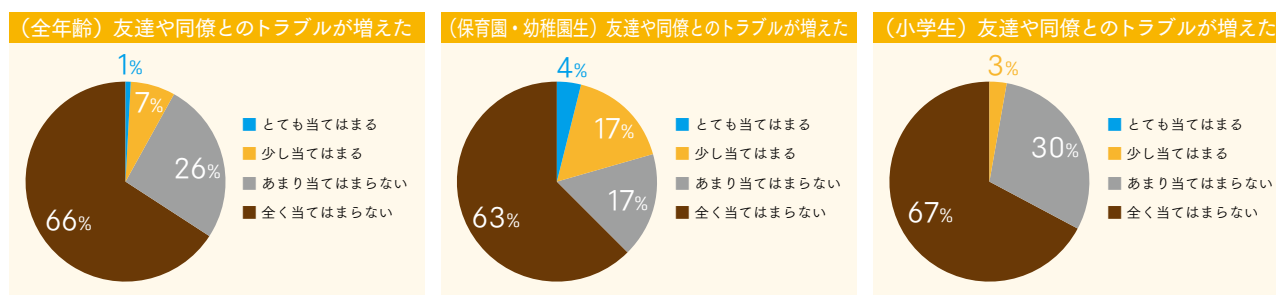
### (家族とのトラブルが増えたか)

全年齢の保護者では27%、小学生の保護者では20% に比べ、未就学児の保護者では42% とより多く家族トラブルが増えたと回答している。未就学児と小学生の間に統計的な差があり、未就学児の保護者の方がより高い割合で家族とトラブルが増えたと回答していた。



### (友達や同僚とのトラブルが増えたか)

全年齢の保護者では8%が友達とのトラブルが増えたと回答。小学生の保護者3%に比べ、未就学児の保護者は21%とより多くが友達や同僚トラブルが増えたと回答している。未就学児の保護者と小学生の保護者の間に統計的な差があり、未就学児の保護者の方がより高い割合で家族とトラブルが増えたと回答していた。



## C-3. 保護者自身の変化として気づくこと (自由記述) ※ ( ) 内の数字は同様の意見を書いた方の人数を示す

### (行動制限・自粛生活の影響)

- 外食が減った
- 家から出る機会が減った
- 飲み会に行けず、つまらなく感じる事が度々ある
- 会いたい人に会えないのが1番嫌
- 遊びで出かけることが減った
- 思うように外出ができず、ストレスを抱えている
- 友人と会うことがなくなった
- ストレス解消ができない

### (生活習慣の変化)

- 規則正しい生活、ウォーキングなどするようにしている
- 家族時間が増えていいが、買い物となると子どもはあまり連れて行きたくない
- 家族との関わりを見直すきっかけになった
- 買い物も短縮してる
- プラモデルとかに興味が出てきた
- 運動不足になった

- 効果があるのかは分からないが、人が密にならないような所を選んで行くようになった
- 感染症対策に対しては負担は感じない。価値観の合わない人など、人間関係の整理ができ人付き合いに対してのストレスが減ってる楽になった。生活しやすくなった
- 消毒や換気など感染対策が増え、やることも増えたが行事が減って楽になったところもあり複雑
- 常に体温計や手洗い消毒をするようになった
- マスク等、感染症対策で必要なものの出費が増えた(2)
- マスクへの意識
- 店などで関西弁のお客さんの会話を聞いたり、県外ナンバーの車を見ると少し感染が怖いなぁと感じる

#### (感染症対策下の生活での子どもとの関わり)

- 手洗いや子どもの衛生的にして欲しくない行動に対して繰り返し伝えないといけない場面が増えてイライラすることが多くなった
- 子供の何気ない行動でも敏感に反応してしまうようになったと思う
- 子どもといる時間が増えてお互いにストレスのかかる時間が増えた
- 子供の手洗いに神経質になった

#### (心身の変化)

- 少しの体調不良がとてもしなるようになった
- 少しの事でイライラする
- 考え事が増えた
- なかなか寝付けなくなった
- コロナの影響で濃厚接触者、陽性者でもないのに仕事を休むことになり有休も使いきってしまい仕事を休むことができないので心の余裕がなくなった
- 子どもの事や仕事柄、感染に対しての不安が強い
- 以前はさほど気にしてなかった体調の変化等に敏感になったというより、神経質になった
- 疲れやすくなった事とぐっすり眠れない

#### (変化なし)

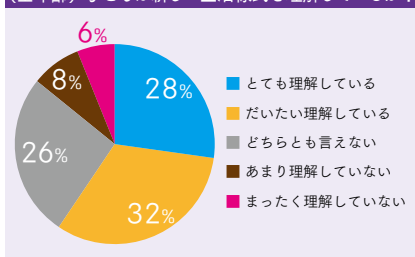
- 特に変化を感じない(4)

### D. 新しい生活様式の中で

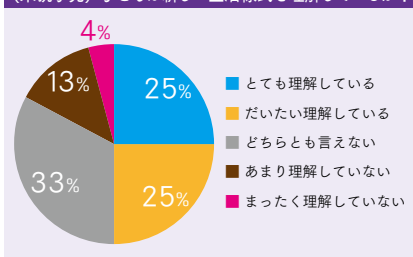
#### D-1. 子どもは新しい生活様式を理解しているか？

全年齢の60%の子どもが「とてもよく理解している」「大体理解している」と回答した。未就学児と小学生の間に統計的な差はなかった。

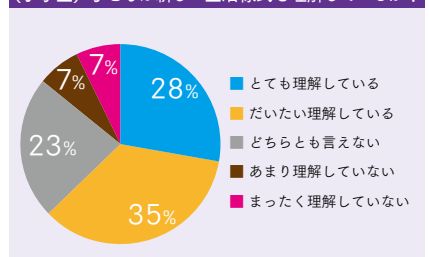
(全年齢) 子どもは新しい生活様式を理解しているか？



(未就学児) 子どもは新しい生活様式を理解しているか？



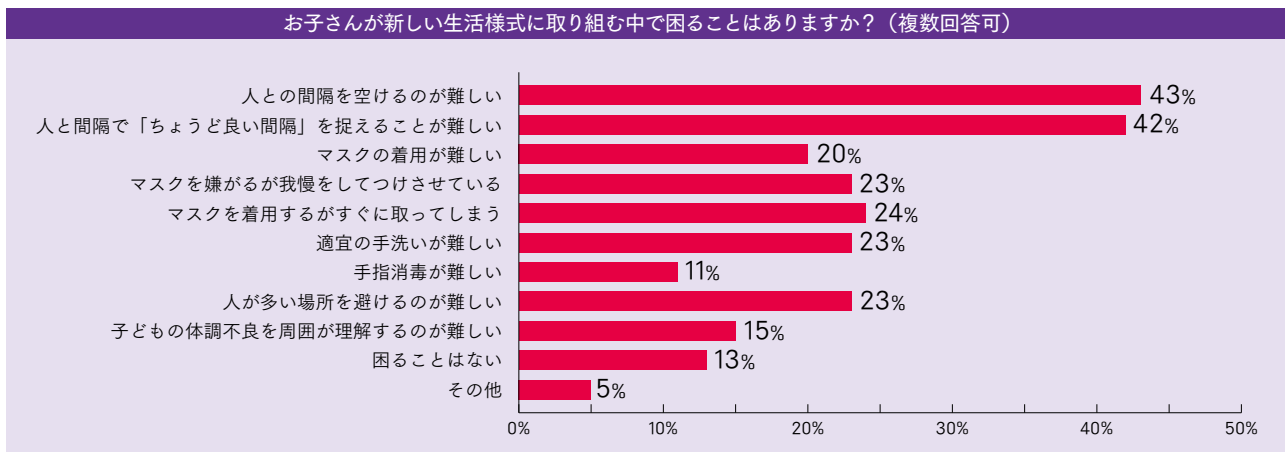
(小学生) 子どもは新しい生活様式を理解しているか？



## D-2. 新しい生活様式で困ること

全年齢における困ることの内容は、複数回答で43%が「人との間隔を空けるのが難しい」と回答した。それに続き「'ちょうど良い間隔'を空けることが難しい：42%」「人の多い場所を避けることが難しい：28.7%」と、適切な距離感を掴むこと、距離を空けることの難しさを感じている回答が多かった。これらの割合は、2020年度調査とほぼ変化しておらず、1年が経過してもなお、上記のように人との距離感を掴むことは子どもにとって困難であることが窺われる。

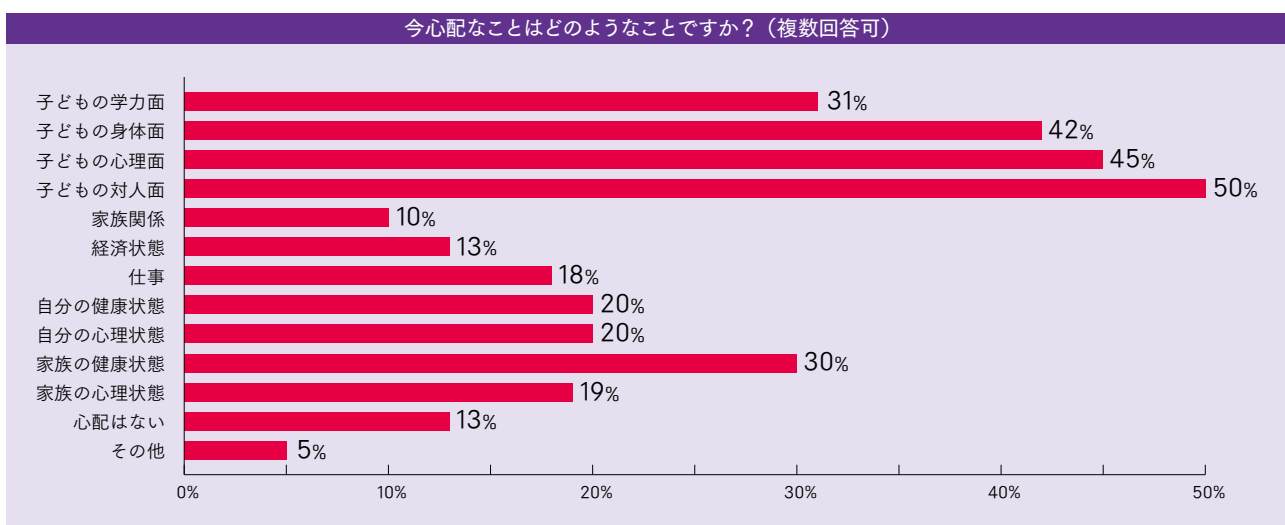
また、「マスクを着用するがすぐにとってしまう」「マスクを嫌がるが我慢してつけさせている」「マスクの着用が難しい」などマスクの着用に何らかの困難を持つ児童も20%ほどいることが示されている。



※グラフ内数字は回答者全体に対する%を示す。

### D-3-1. 心配なこと

今心配なこととして、50%が「子どもの対人面」、45%が「子どもの心理面」をあげた。次いで、「子どもの身体面」「子どもの学力面」が高い割合で困りごととして挙げられた。また30%が「家族の健康状態」、20%程度が「自分の健康状態」「自分の心理状態」「家族の心理状態」を挙げた。保護者は子どもを育てる親としての役割がある一方で、自分自身の健康や精神面も維持していかなければならない。子どもへの支援とともに保護者自身への支援も必要である。



※グラフ内数字は回答者全体に対する%を示す。



## D-3-2. 心配なこと（自由記述）

（感染症に関して 今後について）

- ワクチンの効果、タミフルみたいな薬はいつできるのか、感染対策が基本でいろいろな行動を制限されるのがうんざりしてくる
- いつまで続くのか。子どもが伸び伸びと過ごせる子ども時代は待ってくれないのに
- 自宅療養になるような事になるとアパートで隔離もできないので心配
- 自分の家族が感染したら身の回りのことなど実際どうしたらよいかわからない
- 更なる感染拡大
- いつコロナに感染して重症化するのではないか、ワクチンへの不信感から2回目接種後の副反応、又数年後の身体の異変が不安
- このままマスク生活が長くなるととても酸素不足になり成長期の大事なときです。本来のマスクの着用の定義に戻ることをお願いしたいです
- コロナの正しい知識を学ばせてほしい。子供はコロナは怖いものだとして認識しており大人が思っている以上に不安が強いと感じています

（子どもの活動）

- 子どもの部活動できないことで、意欲が減っている
- 例年より、外遊び・幼稚園で練習ができてないため、運動会で熱中症などにならないか心配である
- 子供が、安心して遊べるようになってもらいたい

（発達特性がある子どもについて）

- 子供が衝動性があり、交通事故に遭いそうになった
- 子ども全員が発達障害なので、それぞれの将来を思うと、まだまだ大変だなと感じる
- 子どもが自閉症で、コミュニケーションがとりにくさの問題があります。マスクをつけていることで、ますます表情が読み取りずらく、コミュニケーション能力を伸ばしにくいのではと感じている

（生活面）

- 会う人を制限されてるのが1番嫌！
- 人と会う機会が減り、また多様な価値観の広がりも加えて、他者とのコミュニケーションに敏感になりやすい傾向があり、以前より疲弊感がある
- 県外の祖父母やいとこに会いに行けないこと
- 旅行に行きたいけど行けない
- みんなの健康

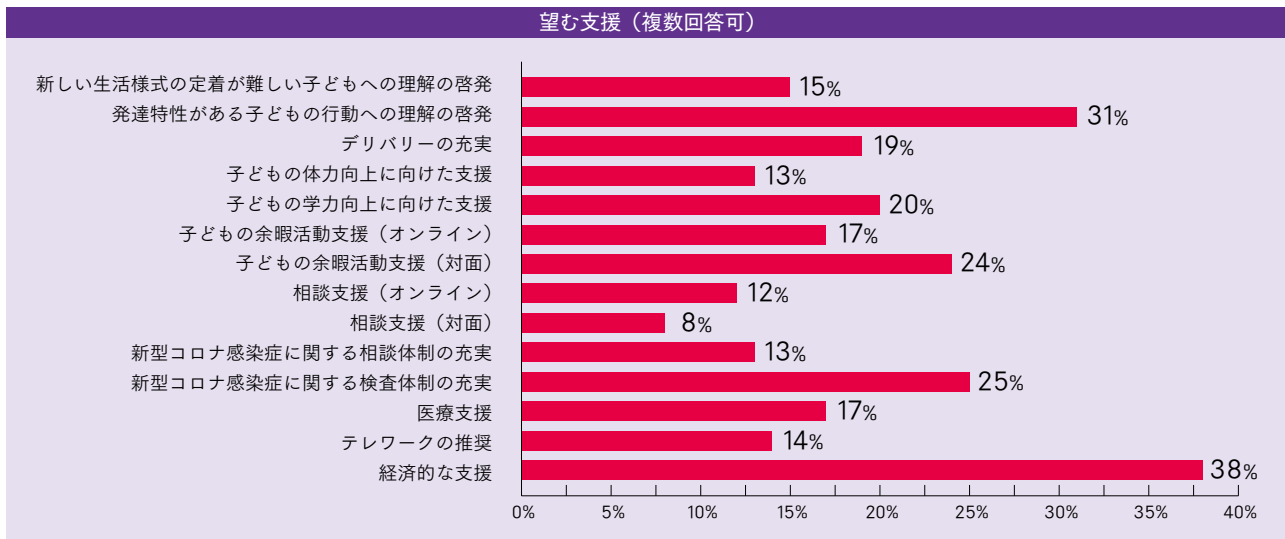
（経済的な側面）

- 仕事の日数が減った。物は値上がりして子供4人もいるのに、仕事が減るのは厳しい
- シングルマザーの為、私が感染した場合の子どもの世話や仕事（収入面）が心配である。親も高齢なので頼れない。反対に子どもが感染した場合に、正規採用ではないため、収入の保証が心配

（地域行事 伝統行事）

- 伝統行事や風習行事を全く知らないまま成長していくのはさみしい

#### D-4-1. どのような支援があれば良いと考えますか？



#### D-4-2. 望む支援（自由記述）

- 子育て世帯（生活保護者含む）に経済的支援してほしい
- お金の支援！
- 経済的支援が一番合理的です
- 見た目、バカにしたりコロナと別でからかったりすることが、なくなる。人の苦しみ、分かって貰える支援があったら嬉しいです
- 正確な情報が欲しい
- 子供がいる母親が安心して集まれる場所があり、子育ての悩みや色々な話がし会える場所があるといい。外出しなくてもオンラインなどで子育ての悩みが相談できたり、ママさん達でオンライン上で集まって情報交換、子育てについての色々な話ができるサロンが開設されるといい
- 発達障害児、よだれのある子どもでも不快なくつけられるマスクが欲しいです
- 療育施設を増やして、利用回数を増やしてほしい
- 市立幼稚園のネット環境の充実
- 子どもだけが感染をしてない場合の預け先が困る
- 学校も放デイも休みがちになっているので、サポート体制があれば助かる
- 三密にならないような環境で子供を自由に遊ばせてあげる場所が欲しいです
- ひとり親世帯への支援体制の充実。保護者が感染者した場合、完治まで子どもを預かっていただけるようなサービス。経済的支援。無利子の貸付
- すぐに指定感染症2類から5類にして今までの生活に戻してください

#### D-5. 感染症対策下の生活を乗り切るために工夫していること、気をつけていることなど（自由記述）

（感染症対策について）

- 手洗い、うがい、マスク着用を徹底している
- アルコール消毒やスプレーなどを持ち歩く
- 不要不急の外出を控える
- 人が集まる場所へはなるべく行かない
- 外食しない
- 子連れで人の多いところに行かない

- 不織布のマスクを付けさせて、気分転換にドライブスルーに行ったり、散歩に行ったり、子ども達には「コロナにかかれば家族には会いたくても会えないんだよ」と話し感染対策に努めるよううろさく言っています
- 密集しない場所へ感染対策をしての外出
- マスクの正しい着用、外出先で目鼻口は触らない事を徹底
- 感染予防の徹底（手洗い、うがい、人混みを避ける等）の必要性を子供とも話すが、必要以上に恐れないような伝え方をすること（差別をしないことも含め）
- 手洗い、消毒、行動範囲を最小限にする
- 外出自粛手洗いやアルコール消毒などルーチンを決めて行っている

#### （体力の維持 工夫して外出）

- 体力や免疫力が落ちないように、時々散歩をさせたり誰もいない公園に連れて行っている
- できるだけ外で体を動かす
- 家の中にいるとテレビやゲームばかりになるので天気の良い時は密にならないような公園で体を動かす遊びをさせています
- 人気の少ない公園など、できるだけ外へ連れ出すこと
- 可能な限り、屋外で遊ばせる
- 子供はコロナのニュースに敏感で不安な為、外に行きたがらず活動量が減っています。早朝や人が少ない時間帯で公園などに出掛けたりしています
- 野外で遊ぶ（海、公園）
- 公園はできるだけ人のいない所に行くようにした

#### （おうち時間の工夫）

- 料理など家の中でも楽しめることを増やしていった
- 極力人混みに子どもを連れて行かない
- 外出を避けるためにネット動画など契約して家で過ごす時間を増やした
- 家の中で楽しめる遊びを考える
- 人の居ない時間帯に広場で遊ばせる、庭でキャンプ
- 家にいる時間は、料理作りを一緒にしたり、粘土や工作などを一緒にする事が増えました
- 家でできる楽しみを大事にする
- ストレスが大人も子供もたまらないようにお家時間を楽しむようなイベント等を家の中でも実施する
- 旅行などできないので、密を避けて近場へドライブ、キャンプなど気分転換を図る

#### （子どもとの対応の工夫）

- 笑顔で対応
- 会話を増やす
- 窮屈に感じないように平常心で過ごしています
- スーパーなどのアルコール消毒は遊びのように声かけしながらしています
- その他は感染症に対して過度に神経質にならず家の中や庭では自由に好きなように遊ばせてストレスにならないようにしています
- できるだけ子どもの話を遮らずに聞くようにしています
- やりたいと言うことは、なるべくさせるようにしている

### (生活習慣の工夫)

- 規則正しい生活をする
- 帰宅後すぐ入浴させる・生活リズムを安定させる
- 自宅待機中は、外出できないので子どもがストレスを発散できるように、日替わりでTODO リストを作り、調理や工作など興味・感心のある事をリストアップし、活動が終わると自分でチェックさせていた
- 生活のリズムをできるだけ崩さないようにしている。家にいる時、動画やテレビ三昧にならないように気をつけている
- 買い物は子どもが幼稚園の時に行く
- ウイルスの飛沫がついているかも知れないとかが理解出来ないなので、お店などで色々な場所を触ってしまいます。なので、買い物が好きなのですが、今は居ない時間帯に買い物は済ませるようにしています
- 人混みはさけ、帰ってきたら必ず入浴をするか部屋着に着替えさせるように習慣をつけさせる

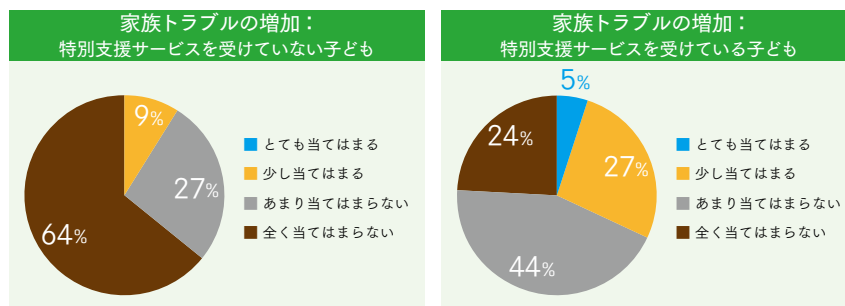
### E. 特別支援教育等を受ける子どもたち・保護者について

特別支援教育や教育福祉サービスを受ける子どもたち及び保護者とそれらサービスを受けていない子ども及び保護者と比較したところ、特別支援教育等を受ける子どもとそうでない子ども間で「家族トラブルの増加」に統計的な差があった。例えば、上記結果の [D.3 心配なこと] 等の自由記述でも示されている通り、子どもに発達特性がある場合にはマスク着用により表情の読み取りがより困難になっていたなど、感染症対策下での生活により負担を抱えていることが推測できる。

下記に差が示された項目について整理する。

#### (家族のトラブルが増えたと思う)

特別支援教育等を受ける子どもがいない家庭では9%が「家族トラブルが増えたと思う」と回答したことに比べ、特別支援教育等を受ける子どもいる家庭では32%とより高い割合で家族トラブルの増加を感じていることが示された。



## 4. 調査結果のまとめ

### 1) 感染症対策下での生活の子どもへの影響

6割弱の子どもが感染症対策下の生活に慣れたと捉えられる一方で、7割近くの子どもの感染症対策下の生活に我慢をしており、5割程度の子どものそのような生活に疲れていると捉えられていることが示された。慣れてはいるが、感染症対策下での生活には我慢も多く強いられており負担が募っていることが示されている。他方、3割程度の子どもの「感染症対策下での生活にも良いところがある」と捉えられており、我慢が多いものの、家族時間が増えたことや行事が減ったことによる負担の減少などポジティブな側面もあったことが窺われる。

子どもの心身の変化については、変化が多い順では「甘えが増えた(40%)」「怒りっぽくなった(36%)」「疲れやすくなった(28%)」「通学上の問題が生じた(23%)」「睡眠の問題が増えた(22%)」と多くの子どもたちで心理面・行動面・身体面に変化が感じられていることが示された。

子どもの変化に関する自由記述では、新型コロナウイルス関連のニュースや自身や周囲の体調不良に対して敏感に反応するような不安症状の増加や、行動制限への不満、本当はやりたいであろうことを「コロナだから無理」と自分で諦める様子などが多く挙げられた。子ども自身もどこにも向けようのない不満と努力ではどうにもならないという諦めを持っており、何か活動をしたいという欲求を自粛している様子が窺われる。

### 2) 感染症対策下での生活の長期化の保護者への影響

対象者の6割程が感染症対策下の生活に慣れたと感じている一方で、8割近くが感染症対策下の生活に我慢をしており、8割近くがそのような生活に疲れていると感じていることが示された。一方で、5割程度が「感染症対策下での生活にも良いところがある」と感じていることも示された。長期化する感染症対策下での生活に慣れてはいるものの、我慢も多く疲労が蓄積されている様子が感じられる。自由記述からも外出や旅行、会食などストレス解消に繋がるような活動ができず負担が募っている一方で、感染症対策下において行事や社会的役割等が削減されたことにより家族との生活が増え、対人面や社会的な行事などの煩わしさから一部解放されたという意見が挙げられており、これが「感染症対策下での生活にも良いところがある」という回答につながったものと考えられる。

保護者の心身の変化の詳細を検討すると、変化が多い順では「疲れやすくなった(53%)」「怒りっぽくなった(39%)」「身体的な不調が増えた(28%)」「食欲の変化があった(27%)」と、心理面・行動面・身体面で幅広い変化が感じられていた。

また、3割近くが家族とのトラブルが増加したと回答した。これは昨年に実施した第1期調査よりも多い割合である。感染症対策下での生活に一部ポジティブな面がありつつも、家族時間が増加したことによる影響が強く出ていると考えられる。自由記述からも、自粛生活の長期化のストレスに加え、子どもに感染症対策を徹底させなければならない負担等が記載されており、保護者の負担が募っていることが窺われる。

### 3) 新しい生活様式上の困難

6割程度の子どもの感染症対策について理解していることが示された。感染症対策下での困難としては「人との空けるのが難しい」「ちょうど良い間隔を空けることが難しい」など、対人的な距離感を掴むことの難しさが多く挙げられた。心配な点としては、「子どもの対人面」「子どもの心理面」「家族、自身の健康状態」などが多く挙げられた。また、マスク生活も慣れてはきているものの「すぐにとってしまう」「我慢してつけさせている」などマスク着用の困難を示す子どもが20%程いることが示された。「よだれのある子どもでも不快なくつけられるマスクが欲しい」などの意見もあり、子どもの状況によって保護者が苦慮している様子が窺われる。

現在心配な点に関する自由記述からは、このような生活がいつまで続くのかという今後の見通しに関する記載や、「発達特性がある子どもへの対応」、「経済的な側面の心配」などが挙げられた。また、ひとり親家庭の方からの「自分が感染した場合の子どもの世話が心配」という意見も寄せられており、様々な生活形態や家庭形態を想定した柔軟な支援が望まれるところである。

#### 4) 2020年第1期調査時との比較

第1期調査時と比較して、下記2点が示されている。1点目は昨年と比較して子どもや保護者の生活の負担や心身の変化は「軽減していない」ことである。換言すると、負担は継続しており、長期化しているということであろう。保護者も子どもも感染症対策下での生活に慣れてはきているが、我慢は継続して強いられており疲労は蓄積していることが示されている。

2点目は「家族トラブルの増加」である。昨年時は10%ほどが家族トラブルの増加を感じていたが、今回の調査では全体で27%、特別支援教育を受ける児童がいる家庭では32%、未就学児の保護者では42%と高い割合で家族トラブルの増加が感じられていた。子ども、保護者双方の負担が募り家族と過ごす時間が増えたことにより、身近な家族間でのトラブルが増加していることが窺われる。

### 5. 今後に向けて

#### 1) 自粛生活に「慣れてはきた」が「疲れている」ことを意識し、生活の中に積極的に気晴らしを

子どもも保護者も感染症対策下での生活に慣れてはきていることが示された一方で、負担は募り疲労感が蓄積されていることが示された。子どもは、行動制限への不満を持ち、本当はやりたいことを「コロナだから」と自ら諦めるなど欲求不満状態が慢性化している様子が窺われる。保護者は、ストレス解消に繋がる行動ができないまま、子どもに感染症対策を徹底させ、子どもの体調管理に気を配りながら、自身の仕事や生活、家計状態への心配を持っている。感染しないように日々気をつけるという緊張感もあるものと推測される。疲労は蓄積されると慢性的な心身の不調に発展する可能性もある。保護者は「自分は疲れている」ということを認識し、意識的に気を抜く時間を作ること、負担を減らすことを重視して生活を見直す必要があるかもしれない。ぜひ積極的に自分を癒す、いたわる行動や気晴らしを生活の中に組み込むことを検討いただきたい。短時間で良いので一人になる時間を持つ、心配事を整理する時間を持つことも有効だろう。心配事を書き出し、モヤモヤを吐き出すということも良いかもしれない。合わせて、できれば負担感を身近な人に伝え、分かち合う方法もあるだろう。

#### 2) 特別支援を受ける子どもたち、様々な状況の家庭や子どもへの理解の推進を

感染症対策については多くの子どもが理解しているものの、幼少の子どもや発達特性を持つ子どもたちの中には、感染症対策が困難なことがあると考えられる。マスクは着用できた方が望ましいが、それが理解はできても実行が難しい子どもたちもいる。保護者の言い聞かせにより、マスクの必要性や密を避ける必要性は頭では理解できても、それを実行するという事は容易なことではない。人との距離感などは感覚的なものであり教えることも難しい。特に外出で気分が高揚していたり、興味があるものが目の前にある時などにはより困難であると想像される。様々な状況の子どもたちがいることを社会が理解する必要があるだろう。

また、ひとり親家庭や親類等が県外に居住しており日常の子育てサポートが少ない家庭もあるだろう。経済的負担が募り、生活困窮家庭が増えていることも想定される。保護者が感染した場合の対応など、いざという時の備えがないことが不安・負担を募らせることが想像できる。感染症対策下での生活が長期化していることを鑑み、長期的な視点で様々な状況の家庭への支援、セーフティネットが必要ではないだろうか。保護者が感染した場合の子どもの預け先等、バックアップ体制の充実と情報提供が求められる。

### 3) 家族トラブルが増えているということ意識し、早めの相談と相談支援の拡充を

昨年に比べ、家族トラブルの増加を感じている回答が大きく増え、全体で3割近い回答者が家族トラブルの増加を感じていた。潜在的にはもっと多くの割合で家族トラブルが増加していることが考えられる。行動が制限され、不満を抱えた者同士が近くにいる家庭環境では、きょうだいや親子、夫婦などの近い関係でトラブルが増加することは自然なこととも考えられる。家族内の事項は抵抗感があるため相談しにくい内容でもある。さらに家庭のことは家庭外からは見えにくいいため、困っている人が孤立し問題が深刻化する可能性がある。

感染症対策下での生活が長期化している状況下では、家族トラブルの増加は自然なことであり、多くの家庭で起こっているということを知り、できれば家族間のトラブルも身近な方に伝えることで風通しを良くするという方法もあるだろう。合わせて、オンライン相談やオンラインサロン、感染症対策を行った上で子どもを預けられる交流・相談の場所など身近で相談できる家族支援の拡充が早急に必要ではないだろうか。

### 4) 子どもに向けた、正しい知識&メッセージの発信を

子どもが感染症に関するニュースに怯えたり、自身や家族の体調不良に敏感になっていることが示された。また、未就学児も含め、子ども自身が様々な欲求を自ら諦め、「どうせダメだから」と表現しなくなっている様子も窺われた。感染症やウィルスは目に見えないものゆえ想像が難しく、子どもは大人が捉える以上の不安を持っている可能性が考えられる。子どもの発達年齢に合わせた感染症に対する正しい知識の発信が重要ではないだろうか。子ども目線で、平易な言葉や動画、アニメーションを用いたメッセージの発信、子どもが相談できる場所の確保と相談場所の紹介などが必要と考えられる。

## 6. あとがき

本調査を実施し、感染拡大が子どもや保護者に与えた影響の一端が示されたと考えている。本調査が子どもの現状の理解に寄与することを願っている。なお、感染症の状況は変化しうるものである。今後も子どもや保護者の負担感を時間的な変化とともに捉えていくため、本調査の第3期を2022年8月に実施予定である。ぜひご協力をお願いしたい。

## 7. 調査の呼びかけにご協力いただいた機関

下記の機関に調査呼びかけのご協力を賜りました。ありがとうございました。

- 奄美市障がい者等基幹相談支援センター
- 霧島市すこやか保健センター

## 8. 調査実施者

鹿児島大学そだちサポートプロジェクト（本調査担当：高橋佳代・今村智佳子・平田祐太郎）

なお、本調査はJSPS 科研費20K02209の助成を受け行われたものです。

本報告書はホームページでも公開しています。QRコード、URLをご利用ください。

鹿児島県における  
新型コロナウイルス感染症拡大が子育て及び子どもの生活に与える影響に関する  
調査報告書（第2期：2021年8月）

発行日 令和4年1月31日  
発行元 斯文堂株式会社  
発行者 鹿児島大学そだちサポートプロジェクト  
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30  
E-mail [amamisodachi@gmail.com](mailto:amamisodachi@gmail.com)  
URL <https://sodasapo.jimdofree.com>

